

**The Study Group
on the Improvement
of HIV Testing
and Counseling Services
in Japan.**

2008300/2B

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

**HIV検査相談機会の拡大と
質的充実に関する研究**

総合研究報告書
(平成18～20年度)



主任研究者
今井光信
(神奈川県衛生研究所)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究

総合研究報告書

(平成18～20年度)

研究代表者

今井光信

(神奈川県衛生研究所)

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(研究分担者) 平成20年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
今井 光信	神奈川県衛生研究所	所長	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	imaim@d2.dion.ne.jp
加藤 真吾	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	専任講師	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211 (61230)	03-5361-7658	skato@sc.itc.keio.ac.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	537-0025	大阪市東成区中道1-3-69	06-6972-1321 (375)	06-6972-2393	kawahata@iph.pref.osaka.jp
木村 和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系 国際保健薬学研究室	教授	920-1192	金沢市角間町 自然科学本館	076-234-4402	076-234-4402	kimurak@p.kanazawa-u.ac.jp
小島 弘敬	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	専門副参事	169-0073	新宿区百人町3-24-1	03-3363-3231	03-3363-3263	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
佐野 貴子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	takawoo@hotmail.com
杉浦 互	(独)国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター	部長	461-0001	名古屋市中区三の丸4-1-1	052-952-1111	052-951-0664	wsugiura@nih.go.jp
立川 夏夫	横浜市立市民病院 感染症内科	部長	240-8555	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961	045-331-1960	na01-tachikawa@city.yokohama.jp
玉城 英彦	北海道大学大学院医学研究科 国際保健医学分野	教授	060-8638	札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5051	011-706-7374	tamashiro@med.hokudai.ac.jp
中瀬 克己	岡山市保健所	所長	700-8546	岡山市鹿田町1-1-1	086-803-1262	086-803-1758	katsumi_nakase@city.okayama.okayama.jp
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	060-0819	札幌市北区北19条西12丁目	011-747-2764	011-736-9476	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
日野 学	日本赤十字社 血液事業本部	副本部長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	s-hino@bs.jrc.or.jp
松浦 基夫	特定非営利活動法人 CHARM	理事	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com matsuura-m@sakai-hospital.jp
矢永由里子	(財)エイズ予防財団 研修研究部	課長	105-0001	千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5階	03-5259-1811	03-5259-1812	yanaga@jfap.or.jp

HIV検査相談研究班事務局 <神奈川県衛生研究所 微生物部>

〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋1-3-1 TEL: 0467-83-4400 FAX: 0467-83-4457

事務担当(内線2210): 小林寛子 (kensahan@m10.alpha-net.ne.jp)

／ 経理担当(内線2015): 田村 哲 (eiken.1540@pref.kanagawa.jp)

研究担当(内線2210, 2215): 近藤真規子 (macoco@bekkoame.ne.jp)

佐野貴子 (takawoo@hotmail.com) 須藤弘二 (phai@mail7.alpha-net.ne.jp)

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(地方衛生研究所)平成20年度

班員名	所属	職名	電話(内線)	FAX	所属	研究担当者	Eメール
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	011-747-2764	011-736-9476	微生物部 ウイルス科	長野秀樹	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
広島紀以子	仙台市衛生研究所	所長	022-236-7722 022-236-7737	022-236-8601	微生物課	勝見正道	fuk005620@city.sendai.jp
原 孝	茨城県衛生研究所	部長	029-241-7601	029-243-9550	微生物部	原 孝 増子京子	t.hara@pref.ibaraki.lg.jp
篠崎 邦子	千葉県衛生研究所	室長	043-266-6725	043-265-5544	ウイルス研究室	岡田峰幸 三瓶憲一	k.shnzk4@mb.pref.chiba.jp
河橋 幸恵	埼玉県衛生研究所	ウイルス 担当部長	048-853-5034	048-840-1041	疫学科 ウイルス担当	篠原美千代 内田和江 島田慎一	a0183437@pref.saitama.lg.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	専門副参事	03-3363-3231	03-3363-3263	微生物部 ウイルス研究科	新開敬行 長島真美	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
今井 光信	神奈川県衛生研究所	所 長	0467-83-4400	0467-83-4457	微生物部	近藤真規子 佐野貴子 須藤弘二	imaim@d2.dion.ne.jp
宇宿 秀三	横浜市衛生研究所	技術吏員	045-754-9800	045-754-2210	検査研究課	野口有三 宇宿秀三	yu00-noguchi@city.yokohama.jp sh00-usuku@city.yokohama.jp
飯塚 郁夫	川崎市衛生研究所	技術職員	045-244-5481	044-246-2606	微生物担当	平山春香	35eiken@city.kawasaki.jp
水谷 均	山梨県衛生公害研究所	所長	055-253-6721	055-253-5637	微生物部	浅川洋美 三橋加世子	asakawa-thh@pref.yamanashi.lg.jp
皆川 洋子	愛知県衛生研究所	所 長	052-910-5604	052-913-3641	生物学部 ウイルス研究室	秦 眞美 田中正大	hiroko_minagawa@pref.aichi.lg.jp mami_hata@pref.aichi.lg.jp
岩治 勉	福井県衛生環境研究センター	所長	0776-54-5630	0776-54-6739	保健衛生部 ウイルス研究グループ	中村雅子	nakamuramasako@fklab.fukui.fukui.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	06-6972-1321 (375)	06-6972-2393	感染症部 ウイルス課	森 治代 小島洋子	kawahata@iph.pref.osaka.jp
近平 雅嗣	兵庫県立健康環境 科学研究センター	感染症部長	078-511-6804	078-531-7080	感染症部	高井伝仕	Denshi_Takai01@pref.hyogo.lg.jp Masatsugu_Chikahira@pref.hyogo.lg.jp
伊藤 文明	広島市衛生研究所	専門員	082-277-6998	082-277-0410	生物科学部 ウイルス担当	伊藤文明 阿部勝彦 山本美和子	ei-seibutsu@city.hiroshima.jp
山下 育孝	愛媛県立衛生環境研究所	ウイルス科長	089-931-8757	089-947-1262	微生物試験室	山下育孝 大塚有加	yamashita-yasutaka@pref.ehime.jp
千々和勝己	福岡県保健環境研究所	保健科学部長 兼ウイルス課長	092-921-9945	092-928-1203	ウイルス課	千々和勝己 中山志幸	chijiwa@fihes.pref.fukuoka.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別協力研究者) 平成20年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
高山 義浩	佐久総合病院総合診療科 厚生労働省健康局結核感染症課	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	hiro-t@umin.net
小池 宙	佐久総合病院 総合診療科	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	koike-h@umin.ac.jp
百瀬 俊也	日本赤十字社 血液事業本部	安全管理課長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	momose@bsjrc.or.jp
本間 隆之	金沢大学医薬保健研究域	助教	920-1192	金沢市角間町金沢大学 自然科学一号館1B636	076-264-6286	076-264-6286	thomma@p.kanazawa-u.ac.jp
相楽 裕子	横浜市立市民病院 感染症内科	非常勤	240-8555	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961	045-331-1960	hsagara@msf.biglobe.ne.jp
岩室 紳也	(社)地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター	センター長	102-0093	千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15F	03-5210-2921	03-5210-2924	shin.iwamuro@nifty.ne.jp
伊藤 章	国際医療福祉大学病院 臨床検査部	教授	329-2763	栃木県那須塩原市井口537-3	0287-39-3060	0287-39-3001	aito@iuhw.ac.jp
大林 民典	東京都立駒込病院 臨床検査科	部長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	03-5814-3366	tami@cick.jp
角野 文彦	滋賀県東近江保健所	所長	527-0023	滋賀県東近江市八日市緑町8-22	0748-22-1253	0748-22-1617	
小泉 京子	江戸川区 健康部 健康サービス課 なぎさ健康サポートセンター	保健師	134-0085	江戸川区南葛西7-1-27	03-5675-2515	03-5675-2519	kyouko-koizumi@city.edogawa.tokyo.jp
清水 茂徳	ライフ・エイズ・プロジェクト	代表	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	shimizu8691@lap.jp
草田 央	ライフ・エイズ・プロジェクト	スタッフ	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	aids@t3.rim.or.jp
堀 成美	東京都立駒込病院 感染症科 国立感染症研究所FETP	研究員	162-8640	新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所	03-5285-1111	03-5285-1233	hnarumi@nih.go.jp
潮見重毅	栃木県県南健康福祉センター	所長	323-0811	小山市犬塚3-1-1	0285-22-0302	0285-22-8403	shiomis01@pref.tochigi.jp
右田麻里子	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	栄サンサンサイト 事務局代表	466-0833	名古屋市昭和区隼人町7-16 セントカーサ50-B	052-831-2290	052-831-2268	chubu@npo-jhc.com
今井 敏幸	財団法人エイズ予防財団 エイズ対策 戦略研究推進室	流動研究員	105-0001	千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5階	03-5259-1811	03-5259-1812	imai@jfap.or.jp
狩野千草	新宿区牛込保健センター	保健師	162-6231	新宿区弁天町50番地	03-3260-6231	03-3260-6223	chigusa.kano@city.shinjuku.tokyo.jp
川添 昌之	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	理事 なんばサンサンサ イト事務局責任者	651-0088	神戸市中央区小野柄通6-1-22 プチメゾン小川 201号	078-222-3001	078-222-3001	osaka-vct@npo-jhc.com

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
高田知恵子	秋田大学教育文化学部心理学研究室	教授	010-8502	秋田市手形学園町1-1	018-889-2537	018-889-2537	takata@ed.akita-u.ac.jp
塚田 三夫	栃木県保健福祉部健康増進課	課長補佐	320-8501	栃木県宇都宮市塙田1-1-20 保健福祉部 健康増進課	028-623-3096	028-623-3920	tsukadam01@pref.tochigi.lg.jp
岳中 美江	特定非営利活動法人 CHARM エイズ予防財団	理事 流動研究員	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com
辻麻理子	国立病院機構九州医療センター 感染症対策室	臨床心理士	810-8563	福岡市中央区地行浜1-8-1	092-852-0700	092-847-8801	cptsujimari@kyumed.jp
星野慎二	かながわレインボーセンターSHIP (横浜Cruiseネットワーク)	代 表	221-0834	横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F	045-306-6769	045-306-6769	shinji@y-cru.com
市川 誠一	名古屋市立大学大学院看護学研究科	教授	467-8601	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	052-853-8089	052-852-4641	yaichisei@yahoo.co.jp
浦尾 充子	千葉大学附属病院カウンセリング室	カウンセラー	260-0856	千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-226-2383	043-226-2295	urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
鬼塚 直樹	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 エイズ予防研究センター	専門官	94105	50 Beale Street, Suite 1200, San Francisco, CA USA	415-597-9375	415-597-8299	nonizuka@webjapan.us
橋 とも子	国立保健医療科学院 研究情報センター	情報デザイン室長 (兼)研究情報セン ター図書館サービ ス室長事務取扱	351-0197	埼玉県和光市南2-3-6	048-458-6206	048-469-0326	ttomoko@niph.go.jp
澤畑 一樹	(株)三菱化学メディエンス 学術部	主事	174-8555	板橋区志村3丁目30番1号	03-5994-2196	03-5994-2931	sawahata-o@mui.biglobe.ne.jp
榎 佐和子	(株)エスアールエル 感染免疫部	部長	192-8535	八王子市小宮町51	0426-28-4083	0426-48-4041	enoki@srl.srl-inc.co.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別協力研究者) 平成20年度

HIV即日検査協カクリニック

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
赤枝 恒雄	赤枝六本木診療所	院長	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	03-3403-4680	spin-dr@fc4.so-net.ne.jp
井戸田 一郎	しらかば診療所	院長	162-0065	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	info@shirakaba-clinic.jp
岩澤 晶彦	岩澤クリニック	院長	060-0061	札幌市中央区南1条西16丁目 レーベンビル2F	011-613-6000	011-613-3000	iwasawa@mb.snowman.ne.jp
上村 哲	上村病院	院長	904-0021	沖縄県沖縄市胡屋1-6-2	098-938-1035	098-939-4206	
江畑 貴文	文化村通りクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-25-10 小田原屋ビル4F	03-5459-4070	03-3780-7702	info@bunkamura.org
大國 剛	大國診療所	院長	530-0057	大阪市北区曽根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423	06-6312-9440	
古林 敬一	大國診療所	医師	530-0057	大阪市北区曽根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423	06-6312-9440	
大里 和久	大里クリニック	院長	563-0027	池田市上池田1-8-13	0727-53-2553	0727-53-2553	docosato@hotmail.com
大原 宏樹	新宿山の手クリニック	院長	160-0021	新宿区歌舞伎町2-45-1 第5ライデンビル5F	0120-156-119	03-5291-1578	info@y-cn.jp
尾上 泰彦	宮本町中央診療所	院長	210-0004	川崎市川崎区宮本町4-1	044-211-6581	044-211-1972	onoye@dd.ij4u.or.jp
尾関 全彦	尾関皮膚泌尿器科	院長	135-0048	東京都江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3階	03-3630-1241	03-3630-1241	
上村 茂仁	ウィメンズクリニック・かみむら	院長	700-0901	岡山市本町4-18 コア本町ビル3F	086-803-5338	086-803-5339	kamimura@kitty.jp
小林 米幸	小林国際クリニック	院長	242-0005	大和市西鶴間3-5-6-110	046-263-1380	046-263-0919	fwix7324@mb.infoweb.ne.jp
鷺山 和幸	さぎやま泌尿器クリニック	院長	810-0001	福岡市中央区天神1丁目3-38 天神121ビル3F	092-720-3077	092-720-3078	uro@sagiyama.net
島尾 忠男	水道橋三崎町クリニック	院長	101-0061	千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5F	03-5259-1821	03-5259-1823	misakichoc@jfap.or.jp
白川 裕一	八重洲山の手クリニック	院長	103-0027	中央区日本橋3-4-12 フロンティア八重洲ビル4F	0120-156-119	03-5205-3688	yaesu@y-cn.jp
立山 啓悦	ひろクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-28-3 クラトスビル4F	03-5458-1860	03-5458-1860	hiro196779@yahoo.co.jp

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
谷口 恭	太融寺町谷口医院 (旧すてらめいとクリニック)	院長	530-0051	大阪市北区太融寺町4-20 すてらめいとビル4階	06-6364-4177	06-6364-4188	cyc02414@nifty.com
多和田俊保	たわだ泌尿器科	院長	460-0011	名古屋市中区大須3丁目14-43 大須第2アメ横ビル3F	052-238-3555	052-238-3536	urotawada35@lime.ocn.ne.jp
西大條文一	丹羽クリニック	非常勤医師	169-0074	新宿区北新宿1-8-1 中島ビル 2F	03-3368-7587	03-3368-7455	info@dojinsai.com
西原 仁	関内マリンクリニック	院長	231-0017	横浜市中区港町2-9-4 関内幸和ビル9F	045-222-6162	045-222-6225	info@kannai-marine.com
根岸昌功	ねぎし内科診療所	院長	160-0004	新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F	03-5369-2041	03-5359-2041	mneg2885@over.ocn.ne.jp
保科 真二	保科医院	院長	604-8032	京都市中京区西木屋町六角 下ガル山崎町258	075-221-4775	075-221-4787	info@hoshina-iin.com
山口 眞澄	池袋山の手クリニック	院長	170-0013	東京都豊島区東池袋1-32-2 小川ビル4階	0120-156-119	03-3986-2977	ikebukuro@y-cn.jp
山中 晃	新宿東口クリニック	院長	160-0022	新宿区新宿3-17-5 カワセビル7F	03-5366-389 090-3231-4484		kouy@ff.ij4u.or.jp
吉尾 弘	吉尾医院	院長	064-0808	札幌市中央区南8条西3丁目1-7	011-511-5564	011-513-1782	

総合研究報告書 (平成18～20年度)

目 次

I. 総括研究報告

HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究..... 1
－総括研究報告（平成18～20年度）－
今井 光信 (神奈川県衛生研究所)

II. 分担研究報告

(1) HIV検査・相談機会の拡大に関する研究

1. ホームページ「HIV検査・相談マップ」を用いた HIV検査相談機関の情報提供とメディア等の広報効果のモニタリング 71
佐野（嶋）貴子 他 (神奈川県衛生研究所)
2. HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査（H18年-H20年） 80
今井 光信 他 (神奈川県衛生研究所)
3. HIV検査機関における即日検査の実施状況およびその効果 105
佐野（嶋）貴子 他 (神奈川県衛生研究所)
4. 保健所等HIV検査機関におけるHIV-1 NATスクリーニング検査の試験的導入 115
佐野（嶋）貴子 他 (神奈川県衛生研究所)

5. 長野県佐久地域におけるHIV/AIDS発生動向と対策	121
高山 義浩 (佐久総合病院総合診療科)	
6. HIV検査とエイズの知識・偏見および 「医療施設における提供者主導のHIV検査相談 (PITC)」の要約	129
玉城 英彦 他 (北海道大学大学院)	
7. 一般病院でのHIV抗体検査の推進に関する研究	146
立川 夏夫 (国立国際医療センター)	
8. 特設検査相談施設 (南新宿検査・相談室) の受検者についての HIVとSTDに関する研究	149
小島 弘敬 他 (東京都南新宿検査・相談室)	
9. ①「かながわレインボーセンターSHIP」におけるSTD検査	159
②MSMを限定としたHIV/STD検査場の結果報告	166
星野 慎二 他 (かながわレインボーセンターSHIP/横浜Cruiseネットワーク)	
10. HIV郵送検査に関する実態調査と検査精度調査	171
須藤 弘二 他 (神奈川県衛生研究所・慶應義塾大学)	
11. HIV自己検査キット個人輸入の保健衛生の調査研究	187
木村 和子 他 (金沢大学大学院)	
12. 血液を用いない検査法 (唾液検査) による HIV検査相談機会の拡大の可能性に関する検討	198
佐野 (嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
13. 献血者への働きかけによるHIV検査機会の拡大 (3年間のまとめ)	206
日野 学 他 (日本赤十字社)	

(2) HIV検査相談の質的充実に関する研究

14. 検査相談 研修ガイドラインの作成と普及について 基本編と実践基礎編の作成 ……213
矢永 由里子 他 (財)エイズ予防財団
15. NPOによるHIV検査相談体制と研修体制 ……224
松浦 基夫 他 (特定非営利活動法人 CHARM)
16. 保健所における検査相談体制に関する研究 ……230
中瀬 克己 他 (岡山市保健所)
17. 北海道におけるHIV即日検査—過去3年間の評価— ……242
長野 秀樹 他 (北海道立衛生研究所)
18. 2006～2008年の東京都におけるHIV検査結果と
イムノクロマト法, BED assayによる検査の解析 ……245
貞升 健志 他 (東京都健康安全研究センター)
19. 愛知県におけるHIV検査結果の解析 ……255
皆川 洋子 他 (愛知県衛生研究所)
20. 大阪府における公的HIV検査の状況 (06-08)、
STI関連診療所における検査相談と疫学調査、
日曜日常設即日検査所におけるPA法併用の効果、
献血における大阪と東京の陽性率に関する考察、
大阪府内においてHIV・AIDS啓発キャンペーンの及ぼした影響 ……258
川畑 拓也 他 (大阪府立公衆衛生研究所)
21. 福岡県におけるHIV検査体制と検査結果の解析 ……273
千々和 勝己 他 (福岡県保健環境研究所)

(3) HIV検査の質的充実に関する研究

22. ろ紙を用いたドライスポット法によるHIV検査法の検討……………279
宮崎 裕美 他 (神奈川県衛生研究所)
23. 新規迅速検査試薬の性能評価……………285
佐野 (嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)
24. HIV-1 RNA定量法キット「アンプリコアHIV-1モニター v.1.5」コントロールサーベ
イと
新しいHIV-1 RNA定量法の開発 (総括報告書) ……………296
加藤 真吾 他 (慶應義塾大学)
25. 薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究：
薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管……………313
杉浦 互 (国立感染症研究所)

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

- 研究成果の刊行に関する一覧表……………323

I. 総括研究報告

HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究

研究代表者 今井光信

(神奈川県衛生研究所)

総括研究報告

目的

本研究班は、平成18年から平成20年の3年間、保健所や医療機関におけるHIV検査・相談の機会を活用して、HIV感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV検査・相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究等、3課題の研究を行った。

(研究分担者)

加藤真吾	(慶応義塾大学医学部)	川畑拓也	(大阪府立公衆衛生研究所)
木村和子	(金沢大学医薬保健研究域薬学系)	小島弘敏	(東京都南新宿検査・相談室)
貞升健志	(東京都健康安全研究センター)	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所)
杉浦 互	(国立感染症研究所エイズ研究センター)	立川夏夫	(横浜市立市民病院)
玉城英彦	(北海道大学大学院)	中瀬己	(岡山市保健所)
長野秀樹	(北海道立衛生研究所)	日野 学	(日本赤十字社血液事業本部)
松浦基夫	(特定非営利活動法人CHARM)	矢永由里子	((財)エイズ予防財団)

(協力研究者)

高山義浩	(佐久総合病院)	相築裕子	(横浜市立市民病院)
小池 宙	(佐久総合病院)	伊藤 章	(国際医療福祉大学病院)
岩室紳也	(社)地域医療振興協会)	百瀬俊也	(日本赤十字社血液事業本部)
大林民典	(東京都立駒込病院)	角野文彦	(滋賀県東近江保健所)
小泉京子	(江戸川区健康部)	清水茂徳	(ライ・エイズ・プロジェクト)
堀 成美	(東京都立駒込病院)	草田 央	(ライ・エイズ・プロジェクト)
潮見重毅	(栃木県南健康福祉センター)	今井幸幸	((財)エイズ予防財団)
辻麻理子	(国立病院機構九州医療センター)	狩野千草	(新宿区生達保健センター)
岳中美江	(特定非営利活動法人CHARM)	塚田三夫	(栃木県保健福祉部健康増進課)
右田麻里子	(特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター)	星野慎二	(かながわレインボーセンター-SHIP)
川添昌之	(特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター)	浦尾充子	(千葉大学付属病院)
市川誠一	(名古屋市立大学大学院)	橋とも子	(国立保健医療科学院)
鬼塚直樹	(カリフォルニア大学)	高田知恵子	(秋田大学教育文化学部)
本間隆之	(金沢大学医薬保健研究域)	榎佐和子	((株)エスアールエル)
澤畑一樹	((株)三菱化学メディエンス)	赤枝恒雄	(赤枝六本木診療所)
井戸田一朗	(しらかば診療所)	岩澤晶彦	(岩澤クリニック)
上村 哲	(上村病院)	江畑貴文	(文化村通りクリニック)
大國 剛	(大國診療所)	大里和久	(大里クリニック)
大原宏樹	(新宿山の手クリニック)	尾上泰彦	(宮本町中央診療所)
尾関全彦	(尾関皮膚泌尿器科)	上村茂仁	(ウイメンズクリニック・かみむら)
古林敬一	(大國診療所)	小林米幸	(小林国際クリニック)
鷺山和幸	(さぎやま泌尿器クリニック)	島尾忠男	(水道橋三崎町クリニック)
白川裕一	(八重洲山の手クリニック)	立山啓悦	(ひろクリニック)
谷口 恭	(太融寺町谷口病院)	多和田俊保	(たわだ泌尿器科)
西大條文一	(丹羽クリニック)	西原 仁	(関内マリナクリニック)
根岸昌功	(ねぎし内科診療所)	保科真二	(保科医院)
山口眞澄	(池袋山の手クリニック)	山中 晃	(新宿東口クリニック)
吉尾 弘	(吉尾医院)	広島紀以子	(仙台市衛生研究所)
原 孝	(茨城県衛生研究所)	篠崎邦子	(千葉県衛生研究所)
河橋幸恵	(埼玉県衛生研究所)	宇宿秀三	(横浜市衛生研究所)
飯塚郁夫	(川崎市衛生研究所)	水谷 均	(山梨県衛生公害研究所)
皆川洋子	(愛知県衛生研究所)	岩治 勉	(福井県衛生環境研究センター)
近平雅嗣	(兵庫県立健康環境科学研究センター)	伊藤文明	(広島市衛生研究所)
山下育孝	(愛媛県立衛生環境研究所)	千々和勝己	(福岡県保健環境研究所)
近藤真規子	(神奈川県衛生研究所)		

研究要旨

本研究班は、保健所や医療機関における HIV 検査・相談の機会を活用して、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV 検査・相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究、等の3課題に関して下記の研究を、平成18年度-平成20年度の3年間に亘り行った。

(1) HIV検査・相談の機会の拡大に関する研究

- ① 「HIV検査・相談マップ」による情報提供とその活用に関する研究 (H18-20)
「HIV検査・相談マップ」(パソコンと携帯)により最新のHIV検査情報を提供するとともに、そのアクセス状況から広報効果や受検者のニーズ解析を行った。
- ② 保健所等HIV無料検査の検査体制と検査結果に関する全国調査 (H18-20)
保健所および特設無料検査施設で実施されているHIV検査相談の現状を把握し、その充実を計るため毎年、アンケート調査を行い結果を解析した。
- ③ クリニック等における即日検査の普及とその効果のモニタリング (H18-20)
HIV即日検査を実施する研究班の協力クリニックをHPで紹介し、受検者増を計るとともに、検査相談の質向上の支援を行い、受検者動向の解析を行った。
- ④ 保健所等HIV検査相談機関におけるHIV-1 NATスクリーニング検査の導入と効果
- ⑤ 医療機関におけるHIV検査相談体制に関する研究 (H18-20)
医療機関におけるHIV検査・相談に関して、国内外の状況を比較すると共に、日本での状況把握を行い、その効果と課題を明らかにした。
- ⑥ HIV検査と同時に行う他のSTI検査に関する研究と支援 (H18-20)
南新宿HIV検査相談室、かながわレインボーセンターSHIP、chot CASTなんば等におけるB型肝炎、梅毒等のSTI検査を支援し、感染状況の解析を行った。
- ⑦ HIV 郵送検査の実態調査とその検査精度に関する研究 (H18-20)
受検者数が急速に増加しつつある HIV 郵送検査に関して、アンケートによる実態調査を行うと共に、配布検体や残余検体による、検査精度の調査を行った。
- ⑧ 自己診断キットの実態調査 (H18-20)
Web 上で入手可能な自己診断キットを実際に入手し、その実態を調査した。
- ⑨ 唾液検査による HIV 検査相談機会の拡大に関する研究 (H18-20)
民間協力クリニックにおいて、唾液を用いた HIV 抗体迅速検査を試験的に導入しその性能を評価するとともにその効果を検討した。
- ⑩ 日赤における HIV 対策と保健所等における HIV 検査相談の連携に関する研究 (H18-20)

(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究 (H18-20)

- ① HIV 検査・相談を担当する人材育成のための研修およびそのガイドラインの作成
基盤となる基本研修と実地基礎研修のガイドライン(プログラム、CDのスライド資料を含む)を作成し研修の質の向上を計った。
- ② NPO による HIV 検査相談体制と研修体制の整備に関する研究
- ③ HIV 検査陽性者を発端としたパートナー検診に関する研究
- ④ 各地域における取り組み

(3) 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究 (H18-20)

- ① 濾紙を用いたドライスポット法による HIV 抗体検査および遺伝子検査の検討
- ② 抗原と抗体を同時に測定できる新規迅速検査キットの性能評価
- ③ HIV 抗体量から感染時期を推測するための抗体検査法 (PA 法、BED 法) の検討
- ④ HIV-1 RNA 定量法キットのコントロールサーベイと新規 HIV-1 RNA の測定法の開発
- ⑤ HIV 検査担当者を対象に技術研修を行い、HIV 検査技術と新知識の普及に努めた。

A. 研究目的

本研究班は、保健所や医療機関における HIV 検査相談の機会を活用して、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV 検査相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究、等の 3 課題の研究を平成 18 年度から平成 20 年度の 3 年間に亘り行った。(図 1-4)

B. 研究方法および結果

(1) HIV 検査相談の機会の拡大に関する研究

①ホームページ「HIV検査・相談マップ」を用いたHIV検査相談機関の情報提供とメディア等の影響のモニタリングに関する研究 (図4-9)

当研究班では、保健所等検査機関における HIV 検査情報の提供や HIV 検査に関する知識の普及を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>) を PC 版サイトおよび携帯電話版サイトに設置し随時更新とその機能強化を計ってきた。

PC 版サイトは 2001 年 9 月に開設し、年々アクセス数は増加傾向にあったが、2008 年は年間アクセス数 87 万件と、2007 年とほぼ同じアクセス数であった。2008 年 12 月末における総アクセス数は 480 万件に達しているが、更なるホームページ掲載情報の充実について検討したい。携帯電話版サイトの 2008 年の年間アクセス数は 56 万件と前年度比 1.4 倍の増加となっており、2008 年 12 月末までの総アクセス数は 155 万件と、順調にアクセス数を伸ばしている。近年の携帯端末ユーザーの増加傾向が伺え、携帯電話版サイトも非常に有効に機能していることが分かった。

PC 版のアクセス数では、2006 年から 2008 年の間にアクセス数が 10,000 件を超えた日が 4 日、一日平均アクセス数の 2 倍 (約 4,800 件) を超えた日が 18 日あった。エイズ動向委員会

の発表や世界エイズデーの関連報道等で件数が増加していた。アクセス数を解析することで、HIV に関するメディア等の報道が受け取り側にどのようなインパクトや効果を与えたかを、HIV 検査への関心の観点からモニタリングできるサイトとしても有効であることが分かった。

地域別のアクセス数を見ると、東京のアクセス数は大阪と比べ 2 倍以上の差があり、また、大阪の検査機関全体のアクセス数は東京に次いで多かったが、保健所検査へのアクセス数は神奈川よりも少なかった。また、愛知のアクセス数も全体的に少なかった。アクセス数はその地域の潜在的利用者数と利便性の高い保健所等無料検査の施設数に反映されていると思われることから、アクセス数の相対的に少ない地域では、保健所等無料検査施設のさらなる機能充実 (夜間、土日、即日検査) が必要と思われる。

(詳細は分担研究報告ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談機関の情報提供とメディア等の影響のモニタリングに関する研究 嶋 貴子 他 参照)

② HIV 検査相談に関する全国保健所等アンケート調査 (図 10-17)

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象とした HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を H18, H19, H20 の 3 年間、毎年 1 回実施した。

全国保健所アンケート調査においては、対象とした保健所及びその支所等の協力により、3 回とも 90% を越える施設から回答を得ることができた。

アンケート結果では、平成 20 年の 1 年間に、回答の得られた 534 施設で、128,249 件の HIV 検査が実施され、280 例 (0.22%) が陽性であった。この 280 例の陽性例の中で、259 例 (93%) が保健所等に再来所して陽性の結果を受け取っており、また、その中の 208 例

(74%)については、その後医療機関に受診していることが分かった。また、感染症法の届け出に関しては、206(74%)が、保健所から直接、報告されていた。

即日検査の実施状況に関しては、平成19年に即日検査を実施した保健所は313施設(59%)と保健所等のHIV検査相談における即日検査は、普及が進み定着しつつあることがわかった。また、即日検査や休日夜間等の利便性の高い検査相談を提供している保健所が全体の75%に達することも分かった。

なお、HIV検査相談の結果返しに関しては、HIVの結果返しにおいて毎年1件、HIV以外のSTI検査の結果返しにおいてH19、H20の各年に1件ずつ、一旦は誤った結果が伝えられる事故があったことが分かった。今後とも採血から結果返しまで間違いのない結果返しができるようマニュアルの整備と細心の注意が必要ことが再認識された。

(詳細は分担研究報告「HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H18年-20年)」今井光信 他 参照)

③クリニック等における即日検査の普及とその効果のモニタリング (図18-19)

HIV検査希望者にとって利便性が高いHIV検査・相談体制の一方法である「HIV即日検査」について、2001年より民間クリニックおよび保健所等検査機関へ導入支援を行った。

民間クリニックへの即日検査の支援は、2008年は25ヶ所で実施し、検査数は22,261件、陽性数は104件と、昨年度と比較して検査数・陽性数ともに増加した。陽性例の結果受け取りや感染症発生动向調査への届出等の状況は、2008年の陽性例104例中99例(95%)が確認検査結果を受け取っており、このうち33例は自施設で経過観察、61例は紹介先拠点病院に受診したことが確認されていた。また、感染症発生动向調査への届出は、91例(88%)がクリニックより届出、13例が紹介拠点病院に届出を依頼していた。

これら協力クリニックにおけるHIV即日検査は有料にもかかわらず多くの受検者が検査を受けており、検査希望者にとって、検査を受けやすい機関の一つとして評価されていることから、今後もこれら協力クリニックとの連携を強化するとともにその受検者動向のモニタリングを継続して行くことが重要と思われる。

(詳細は分担研究報告「HIV検査機関における即日検査の実施状況およびその効果」嶋貴子 他 参照)

④保健所等HIV検査相談機関におけるHIV-1NATスクリーニング検査の導入と効果 (図20-22)

研究班では、HIV感染者の早期発見とHIV検査希望者の献血へのマグネット効果の抑制のため、保健所等検査機関の一部においてHIVスクリーニング検査に試験的にNATを導入してきた。RT-PCR法が2008年4月より、これまでのアンプリコアHIV-1モニターVer. 1.5法からコバスTaqMan HIV-1「オート」法へ切り替えられるのに伴い、プール遠心濃縮法の再検討を行ったところ、新法でも再現性良く測定できることが分かった。

これまでに抗体検査陰性例のほぼ全例を検査対象としている機関において51,559件の検査を行ったところ、NAT陽性が10例判明した(陽性率0.019%)。特に、無料検査機関である川崎市日曜検査では10,437件中2例が陽性(陽性率0.019%)、大阪の定点調査医療機関5ヶ所では21,754件中8例が陽性(陽性率0.037%)となり、HIV感染の早期検出に非常に有効であった。

NATスクリーニング検査は、HIV感染の早期検出のみならず、感染機会から早い時期の感染不安者へも対応が可能であり、献血NATへのマグネット効果の抑止も期待され、HIV検査体制の選択肢の一つとして有用と考える。

⑤医療機関におけるHIV検査相談体制に関する研究 (図23-26)

HIV検査機会の普及・拡大のため、医療機関の果たし得る役割は非常に大きいと考えられるが、その一方で一般医療機関におけるHIV検査には様々な困難や課題がある。このため、一つのモデルとして、長野県において実施されている拠点病院の無料迅速検査の受検者動向の調査結果や佐久総合病院での取り組みの結果を解析・検討し、それぞれの地域において、それぞれの地域特性に合わせた情報提供や検査相談体制が必要なことを明らかにした。(詳細は「長野県佐久地域におけるHIV/AIDS発生動向と対策」 高山義浩 参照)

また、一般病院でのHIV検査相談を推進するため、まず検査を阻む要因の明確化と、もっとも重要な、検査前と検査後の説明の枠組み等を検討した。また、WHO/UNAIDSが2007年に出版した医療施設における提供者主導のHIV検査相談の要約を行い検討した。(詳細は分担研究報告「医療施設における提供者主導のHIV検査とカウンセリング」 玉城英彦 「医療機関における検査相談体制－抗体陽性者への対応－」 立川夏夫 参照)

⑥HIV検査と同時に行う他のSTI検査に関する研究と支援 (図27-32)

東京都南新宿HIV検査・相談室において梅毒、クラミジア抗体、クラミジア抗原、B型肝炎抗原と抗体等のSTI検査の支援を行い、その効果を解析するとともに検査結果の解析を行い、STIの検査結果がHIV検査相談において、より効果的な説明相談の有力なツールを提供することを明らかにした。(詳細は分担研究報告「特別検査施設(南新宿検査相談室)の受検者についてのHIVとSTDとの関連」 小島弘敬 他 参照)

また、MSMを対象とする検査相談事業(SHIP)において、HIVと梅毒、HBs抗原の迅速検査の支援と結果の解析を行った。(詳細は分担研究報告「かながわレインボーセンターSHIPにおけるSTD検査」 星野慎二 他 参照)

⑦HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (図 33-37)

HIV 郵送検査の現状を明らかにするため、毎年、郵送検査会社を対象にアンケート調査を行い、また、協力の得られた郵送検査会社にパネル検体の送付と残余検体を用いた再検査等を行い検査精度の検証を行った。HIV 検査の受検費用は2,625円から7,950円で、検査にかかる日数は1~14日であった。検査結果の通知は郵送が中心であり、検査結果が陽性の場合には、病院での受診を勧める説明文を同封していた。郵送検査の受検総数は年々増加しており2008年の年間郵送検査総数は50,672件であり、スクリーニング検査陽性数は234例であった。(詳細は分担研究報告「HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査」 須藤弘二 他 参照)

⑧個人輸入の HIV 自己診断キットの実態調査 (図 38-40)

平成18年度から20年度にかけてインターネットから購入可能なHIV自己検査キットの購入を行い、その流通実態と保健衛生上の問題を明らかにした。延べ33サイトから16種類のHIV自己検査キットを入手した。たとえば日本で未承認であっても個人輸入代行業者を介したり、海外の製造販売業者からの直販により容易に入手できることが判明した。しかし、HIV自己検査キットには医療用・研究用の製品の一般生活者への販売、検査前後のカウンセリングの欠除、説明不足や不適切な説明による誤使用の危険性、偽造品の混入、発送業者や製造販売業者の不詳、さらに製品の品質保証の欠如といった問題点が含まれていた。一般の検査希望者がHIV自己検査キットを個人の判断で輸入し使用するのには厳に避けるべきことが分かった。また、少なくとも16種類にも上るHIV自己検査キットが国際的に流通している現状を重視し、製造販売者、流通業者及び製品そのものについて国際的に規制し監視するシステムが必要であることも分

かった。(詳細は分担研究報告「HIV 自己診断キットの実態に関する研究」木村和子 他 参照)
⑨唾液検査による HIV 検査相談機会の拡大の可能性に関する研究 (図 41-43)

米国では 2004 年に口腔内液で検査可能な迅速検査試薬が FDA で認可され、それをを用いた即日検査が多く実施されている。日本においても HIV 検査相談機会の拡大に繋がる可能性のある方法の一つとして、口腔内液を用いた検査(以下、唾液検査と略)の実施の可能性を検討するため、唾液検査試薬の性能検討および唾液検査に対する受検者の意識調査を行った。唾液が検査可能な迅速検査試薬である OraQuick ADVANCE Rapid HIV-1/2 Antibody Test (OraSure 社、以下 OraQuick と略)について、唾液を用いた性能評価を行った結果、特異性は 99.5%であり、現在使用されている HIV 検査試薬の特異性とほぼ同程度であったが、感度は 96.9%と偽陰性を示す検体があることが分かった。なお、偽陰性であったケースは HAART 治療を受けている患者であり、未治療の HIV 感染者には偽陰性の例はみられなかった。アンケート調査では、唾液による HIV 検査は採血が不要なので良いと回答した人が 64.1%、唾液検査が実施されるようになったら唾液検査を希望すると回答した人が 70.7%と、唾液検査への要望が高いことが分かった。唾液検査の信頼性が担保され、唾液検査が実施されるようになった場合には、唾液検査の導入が HIV 検査の受検者増に繋がる可能性が大きいことが示唆された。(詳細は分担研究報告「血液を用いない検査法(唾液検査)による HIV 検査相談機会の拡大の可能性に関する研究」佐野(嶋)貴子 参照)

⑩日赤における HIV 対策と保健所等における HIV 検査相談の連携に関する研究(図 44-46)

日赤ではウイルス感染症対策として、各種感染症の血液検査に加え、問診、献血歴の照会、本人確認等の強化を行っているが、ウインドウ期の献血の可能性が残るため、100%の安全確

保は困難となっている。本人確認の強化や問診の強化等の実施により 2005 年には献血者における HIV 検査陽性件数が一旦減少したがその後は再び増加傾向に転じ、特に大阪地区など関西での増加が顕著なことが分かった。感染初期のウインドウ・ペリオド期の血液の危険性をマスコミ・ポスターなどで広く国民にアピールすると共に、それぞれの地域における HIV 対策に関して、日赤と保健所等が連携をより強化して取り組む必要のあることが分かった。

(詳細は分担研究報告「献血者への働きかけによる HIV 検査相談機会の拡大」日野学 他参照)

(2) HIV 検査相談の質的充実に関する研究

①HIV 検査・相談の研修ガイドライン・マニュアルの作成 (図 47-49)

HIV 検査相談の質の維持向上のためには、HIV 検査相談に関わる人材の育成が重要であり、そのためには、それぞれの職場における質の高い研修が必須である。このため、研修に積極的に取り組んでいる NPO 法人の事例やエイズ予防財団での取り組みを基に、HIV 検査相談担当者への研修ガイドライン(検査相談に関わる全ての人を対象とした研究用“基本編”と主として相談担当者を対象とした実践基礎編)を作成し、全国の保健所、検査相談関係機関に配布し、研修の質の向上を支援した。

(詳細は分担研究報告「HIV 検査相談の担当者を対象とした研修ガイドラインの作成」矢永由里子 他 参照)

②NPO (CHARM) による HIV 検査相談体制と研修体制に関する研究

NPO (CHARM) において蓄積されてきた、人材育成や HIV 検査相談の運営方法等について、手順の再検討を実施するとともにその文書化により、他の NPO 等での活用を支援した。(詳細は分担研究報告「NPO による HIV 検査相談体制と研修体制」松浦基夫 他 参照)

③HIV 検査陽性者を発端としたパートナー検査に関する研究(図 57-59)

HIV 検査陽性者を発端としたパートナー検診（陽性者のパートナーに対する検査を含めた健康管理へのはたらきかけ）に関して、諸外国での現状を調査するとともにエイズ学会におけるシンポジウム等の機会を活用して関係者による議論を深めその問題点を整理した。（詳細は分担研究報告「保健所における HIV 検査相談体制に関する研究」 中瀬克己 他 参照）

④各地域における取り組み（図 50-62）

北海道、東京都、愛知県、大阪府、福岡県における HIV 検査相談への取り組みについて各地域においてそれぞれの地域特性を生かした研究を行った。（詳細は下記の各分担研究報告を参照。 分担研究報告「北海道における HIV 即日検査—3 年間の評価—」 長野秀樹他、「2006-2008 年の東京都の HIV 検査結果とイムノクロマト法、BEDassay による検査の解析」 貞升健志他、「埼玉県における HIV 検査体制と受検状況について」 菊池好則、「愛知県における HIV 検査体制の解析」 皆川洋子他、「大阪府における公的 HIV 検査の状況（06-08）、STI 関連診療所における検査相談と疫学調査、日曜日常設即日検査所における PA 法併用の効果、献血における大阪と東京の陽性率に関する考察、大阪府内において HIV/AIDS 啓発キャンペーンの及ぼした影響」 川畑拓也他、「福岡県における HIV 検査体制と検査結果の解析」 千々和克己他 参照）

(3) HIV 検査の質的充実に関する研究

①濾紙を用いたドライスポット法による HIV 抗体検査および遺伝子検査の検討（図 63-65）

郵送検査等に多く用いられている濾紙を用いたドライスポット法の検討の結果、抗体検査、遺伝子検査ともに、濾紙から回収した血液による検査で、濾紙に吸着前の血液を用いた時とほぼ同等の感度で検出が可能なが分かった。（詳細は分担研究報告「濾紙を用いたドライスポット法による HIV 検査法の検討」 宮崎裕美 他 参照）

②抗原と抗体を同時に検出できる新規迅速キットの性能評価（図 66-68）

既に米国を中心に使用されており、日本に導入の可能性がある HIV 迅速抗体検査 2 試薬について評価を行うとともに、新たに日本において開発された、イムノクロマト EIA 法を原理とし、抗 HIV 抗体と HIV-1p24 抗原を同時に 15 分で検出可能な迅速抗原抗体同時検査試薬について性能検討を行った。

海外で既に使用されている迅速抗体検査試薬である Uni-Gold Recombigen HIV と OraQuick ADVANCE は、ダイナスクリーンと比較し特異性は良い傾向にあったが、感度は若干低い傾向であった。

また、新たに日本で開発された、迅速抗原抗体同時検査試薬であるエスブライン HIV Ag-Ab の検討を行ったところ、感度は 100%、特異性は 99.8%であり、臨床应用到十分な精度を有していることが分かった。また、本検討において、ダイナスクリーンの偽陽性率が 0.9%であったことから、検討品は迅速検査試薬として非常に特異性が高く、また、感染初期セロコンバージョンパネルの結果において、抗原検出も可能なことから他の迅速検査試薬と比較してより早期の HIV 検出が可能で、HIV 迅速スクリーニング検査キットとして非常に有用であることが示唆された。（詳細は分担研究報告「新規迅速検査キットの性能評価」 佐野貴子他 参照）

③HIV 抗体量から感染時期を推測するための抗体検査法の検討（図 69-70）

凝集法 (PA) と BED 法の検討を行った結果、PA 法は感染後 2-3 月以内と早い時期の推定に、また、BED 法では感染後 3-4 ヶ月以内および 5-6 ヶ月以内とやや長い時期の推定に使用可能なが分かった。凝集法 (PA) と BED 法の測定値から感染時期を推定した結果、PA 法で 1,000 倍未満（感染後 2-3 月以内）が、保健所、クリニック、献血等での HIV 検査陽性者の 4%-12%と少なからず存在した。また、